

新しい生活様式におけるレクリエーションの価値

横山 誠^{*1} 相奈良 律^{*2} 植木 隆光^{*3}

The Value of Recreation in the New Normal of COVID-19

Makoto Yokoyama^{*1} Ritsu Ainara^{*2} Takamitsu Ueki^{*3}

キーワード

レクリエーション、価値、新しい生活様式、新型コロナウイルス感染症

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症がパンデミック（世界的大流行）を引き起こし、世の中の動きは大きな転換期を迎えている。ヨーロッパやアメリカの大都市ではロックダウン（都市封鎖）が行われ、外出や人々の交流が制限されると共にあらゆる行動への自粛ムードが広がった。WHOは、2020年1月30日に「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」であると宣言した（日本WHO協会 2020）。3月24日には、東京オリンピック・パラリンピックの延期が発表（東京都オリンピック・パラリンピック準備局 2020）され、6月28日には世界の感染者が1000万人を超えた（日本経済新聞 2020.6.28）。そして、7月27日にWHOのテドロス・アダノム・ゲブレイェソス事務局長は「これまでWHOが宣言した世界的な健康危機の中で最も深刻（日本経済新聞 2020.7.28）」と述べ、8月11日は世界の感染者が2000万人を超えた（日本経済新聞 2020.8.11）。直近のデータ（日本経済新聞 2020）では、アメリカやブラジルでの感染者数は8月上旬に比べるとやや減少しているが、インドの新規感染者数が右肩上がりで増加している。

日本国内においては、3月2日から全国すべての小学校、中学校、高等学校を春休みに入るまで臨時休校とすることを要請（日本経済新聞 2020.2.27）し、新型コロナウイルス対策の専門家会議は、(1) 換気の悪い密閉空間 (2) 多くの人が密集 (3) 近距離での会話や発声（密接）のいわゆる「3密」を避ける行動を呼びかけた（厚生労働省 2020）。4月7日には大都市の7都道府県に、16日には全国に「緊急事態宣言」を発出した（日本経済新聞 2020.4.8）。5月4日には、専門家会議からの提言として「新しい生活様式」が示され、(1) 一人ひとりの基本的な感染対策、(2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式、(3) 日

*1 よこやま まこと：経営経済学部准教授（2020.9.18受理）

*2 あいなら りつ：公益財団法人大阪府レクリエーション協会

*3 うえき たかみつ：公益財団法人大阪府学校給食会

常生活の各場面別の生活様式、(4) 働き方の新しいスタイル、と4つの実践例（厚生労働省 2020）が示された。そして、5月25日に緊急事態解除宣言（日本経済新聞 2020.5.25）を発出しているが、日常生活における様々な自粛ムードは今もなお継続されている。

オムロンヘルスケア株式会社（2020）が実施した「65歳以上の高齢者1,000人に聞いた“with コロナ”実態調査」では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前より運動量が減少したと53.8%が回答し、日常で減少した行動は「宿泊を伴う旅行」や「日常的な買い物」が上位であった。木村ら（2020）は、自粛ムードの長期化は閉じこもりや社会的孤立の増加、更には健康への弊害を指摘し、高齢者の健康を維持・向上するためには外出や他者との交流、運動や社会参加が重要であると述べている。また、それらの機会が制限されることで、要介護、認知症、早期死亡へのリスクが高まり、また要介護状態も重症化する可能性を示唆している。新型コロナウイルスによる弊害は高齢者に限ったことではない。テレワークによる健康被害として、身体的には、首、背中、肩等の痛み、眼精疲労、頭痛や片頭痛といったデスクワーク特有の局所的な問題が多く上げられ、収入、孤独、活気、ワークライフバランス、家族の健康などに不安を感じている人も多く、精神的な問題も報告されている。また、コロナ禍におけるライフスタイルの変化は、子どもの肥満が多くなることが予想され、その背景には身体活動量の減少が大きく関係している（公益財団法人明治安田厚生事業団 体力医学研究所 2020）。実際に外出自粛の影響に関する調査結果では、「体重が増加した」と回答した小学生は36.9%、中学生は37.4%、高校生は34.9%であり、「体力がなくなった」と回答した小学生は35.3%、中学生は44.1%、高校生は55.1%に上っている（東洋経済オンライン 2020）。

こうした未曾有の事態ではあるが、これまでも人々の生活を脅かし社会経済の崩壊へと導いた事態は数多く起こっている。そうした中でも我々人類は死に絶えることなく乗り越えてきた。その原動力のひとつとして「レクリエーション」の存在があるのではないだろうか。レクリエーションという言葉は誰しもが知っている言葉ではあるが、その意味や言葉の由来などは殆ど知られていない。レクリエーションは、広辞苑において「仕事や勉強などの疲れを、休養や娯楽によって精神的・肉体的に回復すること。またそのために行う休養や娯楽」と記されている。レクリエーションという外来語は、create（つくる）という語にre-（再び）という接頭辞を加え、意味は「再び創る」、「創り直し」となる。壊れたものが創り直されることが原義であるが、人間に当てはめて考えてみると、壊れた状態（病気やケガ）が癒えることになる。中世の英語 recreation には、疲れ果てて倒れている人に滋養のある食物を与えて元気にするという用法があり、後にそれが日常的に広まって「疲労から元気を回復する」さらには「元気回復のための遊びや活動自体」を指すようになった（藺田 2008, p10-11）。このような考えを現在のコロナ禍にあてはめてみると、世界中が壊れた状態にあるといえる。この壊れた状態を打破するヒントがレクリエーション運動の変遷に数多く隠されている。

公益財団法人大阪府レクリエーション協会専務理事の片倉道夫は、戦後のレクリエーション運動を推進し牽引してきたパイオニアであるが、「昨今は、私たちの暮らしも便利で豊かになりましたが、その変化には驚くばかりです。物事がIT化、グローバル化へと進

む中、急激な物資文明の利便さに浴する一方で、過度の依存や効率至上主義がもたらす弊害や価値観が地球規模で問われています」と警鐘を鳴らしている。そして、「今こそレクリエーションでリフレッシュすると共に、レクリエーションは人間の活動の再創造に重要な役割を担うのである」とレクリエーションの重要性を説いている(大阪日日新聞 2017.4.16)。また、奥野ら(2013)も「レクリエーションの意義を捉える際、レクリエーション活動の価値を十分掘り下げずして教育の価値を論ずることはできない」と述べており、レクリエーションには多様かつ無限な価値が包含されているのである。

2. 目的と方法

本研究の目的は、新型コロナウイルスがレクリエーションに与えた影響を明らかにすると共に、新しい生活様式におけるレクリエーションの価値について示唆することである。

方法は、レクリエーションに関する書籍、レクリエーション公認資格の養成テキスト、レクリエーション協会記念誌などから、レクリエーション運動の変遷を紐解き、時代と共に人々の暮らしの中でのレクリエーションの意義や価値について再認識を行う。そして、新型コロナウイルスがレクリエーションに与えた影響について考察すると共に、コロナ禍において新たな取り組みや思考、注目された新たなサービスなどの事例から、新しい生活様式におけるレクリエーションの価値について示唆を行う。

3. 結果

3-1. 言葉の由来とレクリエーション運動の変遷

レクリエーションという言葉をもとに1つの明確な教育用語として定着させたのは、17世紀ボヘミアの哲学者コメニウスがラテン語で書いた著書「大教授学」(1657年)である。「大教授学」は近代教育の土台となった著書としてヨーロッパ各国で広く読まれた。その中でレクリエーションは、授業の後の休養と次の授業のための元気回復の時間として、その重要性が強調され、「学校の休み時間」と定義されている。イギリスの哲学者ジョン・ロックも「教育に関する考察」(1693年)に「気晴らし(レクリエーション)は、怠けていることではなく、仕事をかえて、疲れている体の部分を休ませること」と述べたとされている。これらの指摘は、レクリエーションを教育的に意味のある遊びとして理解する源流である。その後もジュネーブのルソー、ドイツのフレーベル、イギリスのスペンサーなどの教育思想もレクリエーション運動の起源としてとらえられている。19世紀には都市化と産業の機械化が進んだアメリカの都市部において青少年を取り巻く社会環境の悪化が問題視された。その対策の一環としてスポーツやレクリエーションの機会を用意することを目的にYMCAが組織され、1885年にボストンにサンドガーデン(砂場)が作られたことをきっかけに、子どもたちの遊び場をつくる運動「プレイグラウンド運動^{*注1)}」が展開された。1929年、アメリカは大恐慌にみまわれ社会不安が広がり犯罪が急増した。政府は不況と不安に対する策を講じなければならず、余暇を管理する国民運動としての「レクリエーション運動」が誕生した。ルーズベルト大統領は、大恐慌から抜け出すためニューディール政策を打ち出し、この中にレクリエーション施設の整備、運営するための労働力の創出、増

大する自由時間を望ましい方法で吸収しようとしたレクリエーション環境整備を取り入れた。ドイツにおいてもナチス政権が労働者の余暇を組織化し、安価で健康的なレクリエーションを提供し群衆の心をひきつけ、健康増進や国家への忠誠心を養う運動体として「K.d.F. (カー・デー・エフ) 運動=喜びを通じて力へ」が推進された(財団法人日本レクリエーション協会 1994, 1998)。国民誰しもが知るレクリエーションではあるが、その歴史を紐解けば、教育的な意義や価値、そして国家戦略として国民を動かす力あることを証明している。

3-2. レクリエーション運動におけるパラダイムシフト

レクリエーション運動には、教育思想や社会問題を解決する運動体の性質が内在していることを理解しつつも、20世紀のレクリエーション運動を批判的に捉え、21世紀のレクリエーション運動へのパラダイムシフトを唱えた論説がある。このようにやればこれだけの効果がある、これだけ歩けば何キロ減量できるというように常に合目的計量的思想で捉えられる「力の論理」の健康づくりは、特異な場合には競争原理を仰ぐこともある。21世紀は、効率一辺倒の健康づくりだけに注目するのではなく、既に市民権を得ている「共生原理」を基層とする新しい身体文化を確立しなければならない。植木(2011, p103)は、レクリエーション協会の職員という立場から20世紀のレクリエーション運動の反省点を指摘し、そのうえで21世紀における新しいレクリエーション運動の在り方について、競争原理から共生原理へのパラダイムシフトを主張した。

レクリエーション運動の潮流の中で、1970年代は「職場レクリエーション」の時代であった。企業では健康でかつ健全な考え方をもちた人材が必要とされ、運動嫌いな人には楽しみながら体力をつけるというレクリエーションの体質に期待が寄せられた(財団法人大阪府レクリエーション協会記念誌編集委員会 1998)。この頃、大阪の御堂筋では健康づくりのために就業前にウォーキングを行うという「御堂筋トリム」が始まった。その後10年間続けられ、月例会としての「トリムの会」へと変更し2004年度の第306回をもって大阪におけるトリムの歴史は幕を閉じた。参加者は約30年間で10万人を超える盛況ぶりであった。

2000年を迎えのレクリエーション・インストラクター養成テキストにおいては、「21世紀の社会とレクリエーション運動」が第1章に挙げられており、そこにはアメリカの社会心理学者エリッヒ・フロムが説いた「to have (持つこと) から to be (あること) への転換」が示されていた。これを換言すれば、精神的・文化的な価値を改めて評価するということである(茵田 2004)。時代の変遷とともにレクリエーションにおいても新たな価値創造が求められるようになった。植木(2011, p23)は、21世紀社会に相応しいレクリエーション運動の在り方を展望し、その時代相の生成原理が「共生原理」にならなければならないと見定め、レクリエーション運動はこのあるべき姿としての共生原理のもとに設計されなければならないことを主張している。大阪府レクリエーション協会(2008)は、2005年度より大人から子供まで幅広い人間交流を基本に、歩く学習、歩く身体活動を通して、“五感を磨き豊かな人間力を創造する”21世紀の歩く運動体として「歩育」を提唱し、日

本のレクリエーション史上初となる新たな事業としてスタートさせた（財団法人大阪府レクリエーション協会記念誌編集委員会 2008）。井上（2009）は、発案者である片倉道夫にインタビューを行い、片倉は「歩育はたくさんあるウォーキングの方法の中のひとつだと考えてください。目指すところは、歩きながら五感を養い、自然に学び、感性を豊かにし、豊かな人間性を育むことです」と想いを語っている。そして、その想いはレクリエーションリーダーたちにより体现され、2007年9月には、「健康おおさか21推進府民会議」の認定、推薦を受け府民運動として新たな歴史を歩み始めた（財団法人大阪府レクリエーション協会記念誌編集委員会 2018）。

3-3. 新型コロナウイルス感染症がレクリエーションに与えた影響

公益財団法人日本レクリエーション協会（2017）は、レクリエーションという言葉の主旨（目的）を「心を元気にすること」と定義しており、その背景として、心を元気づけることが今の社会全体の大きな課題となっていると説明している。そして、レクリエーションを学ぶにあたって、(1) レクリエーションという言葉の要旨（目的）は「心を元気にすること」、(2) レクリエーション支援と手段としてのレクリエーション活動、(3) コミュニケーションがすべての基盤、(4) コミュニケーション能力を高める学び、(5) 公益性の高い事業で活躍する、と要約されている。しかし、国内における新型コロナウイルスの感染者の拡大に伴い、不要不急の外出を控えるという「ステイホーム」の考えが提唱され、人々の社会的なコミュニケーションは分断された。必要最低限の外出、外出時のマスク着用、一般的に2mの間隔を空けるというソーシャルディスタンス、といまだ続く自粛ムードは人々の暮らしを大きく変化させた。こうした変化は、いうまでもなくレクリエーションだけでなくスポーツ、レジャー、それに関連する観光などあらゆる産業にも大きな影響を与えている。

スポーツイベントにおいては、全国大会や大規模な大会やイベントはほぼ中止となった。レクリエーション分野においても同様に、第74回全国レクリエーション大会2020ひょうごが中止、第33回ねりんピック岐阜2020は延期を発表した。全国レクリエーション大会は、「全国の日本レクリエーション協会公認指導者、各種レク関連団体および関係者・実践者・研修者らが一堂に会し、レクリエーション運動の成果を発表するとともに、今後の進むべき方向を確認する大会（公益財団法人日本レクリエーション協会ホームページ）」であり、74回目にして初の中止となった。参加者数は毎回1万5千人程度にのぼり、多い時は5万人を超える大会もあり、その半数以上は県外からの参加者で、中高年層の参加も多く、開催地域の観光にも資する等との評価もある（第73回全国レクリエーション大会in宮城2019準備委員会 2018）。また、ねりんピックは「全国健康福祉祭（愛称:ねりんピック）は、スポーツや文化種目の交流大会を始め、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与する（厚生労働省ホームページ）」として厚生省創立50周年に当たる昭和63（1988）年から毎年開催しているが、こちらも初の延期となった。こうした全国規模の大会やイベントは、地域経済に好影響を与え、ねりんピック前

年度開催の和歌山県における大会の経済波及効果は、100億9,700万円と報告されている（一般財団法人和歌山社会経済研究所 2020）。

コロナ禍におけるレクリエーション事業の中止や延期について具体的な調査データは明らかにされていないが、ナショナルセンターである日本レクリエーション協会、都道府県や市町村の各レクリエーション協会においても多くの事業が中止または延期されていることは容易に想像できる事態である。学校教育団体や民間団体などが多く利用する全国の青少年教育施設では、9割超の施設が受入れを停止、約106万人の活動に影響を及ぼすと発表（国立青少年教育振興機構 2020）している。しかし、このデータは4月27日時点での回答を集計したものであり、その後更なる影響が出ていることが予想される。

レクリエーション活動は、市民レベルにおいても、人々が集い、声をあげ、歌って、踊って、笑って、コミュニケーションを促進するものである。かつては、三種の神器として、ゲーム・ソング・ダンスがレクリエーションの代名詞とされたが、スポーツやレジャー、ツーリズムも人々の暮らしを豊かにするツールであり、多様なアクティビティも日々開発されている。日常においても非日常においても、同じ空間で同じ活動を共有しながら、互いの存在を感じ、五感をフルに活かして心を元気にしてきたのである。しかし、自粛モードの中では、大きな声での会話を控え、人と距離を取り、顔の約半分はマスクで覆われ顔認識や表情の認識が難しい状態にある。共に手を取り合い、歌い踊るというこれまでのレクリエーションスタイルは難しく、新たなスタイルを確立していかなければならない。

3-4. 新しい生活様式の中で生まれた新たなサービスと価値観

これまでのレクリエーションスタイルを否定するわけではないが、今のこの状況をチャンスと捉え、新たなレクリエーションのスタイルを検討する良い機会ではないだろうか。レクリエーションの指導者は、対象者に応じて様々なレク財をアレンジすることを得意としている。見方や捉え方を目の前の対象者から環境へ置き換え、この環境下においてどのようなレクリエーションが個人にとって、社会にとって有益なのか、そのためには何をすべきか。レクリエーション指導者の柔軟な対応力をもってすれば必ずや多くのアイデアが出てくるはずである。自粛が続き、対面によるコミュニケーションができなくとも、人々の暮らしの中には「レクリエーション」が必要不可欠であり、決してその灯を絶やしてはならない。

コロナ禍において、社会経済活動が滞り、多くの産業が悲鳴を上げている一方、そこに好機を見出した新たなビジネスやサービスも誕生している。その一つにオンラインを活用したビジネスやサービスが挙げられる。自粛モードで大打撃を受けている観光産業、旅行業界であるが、琴平バス株式会社（2020）は、国内で初めて実施したオンラインバスツアーがヒットし、各種メディアで紹介されている。こうしたサービスは、直接触れ合う体験はできないが、どれだけ離れていてもリアルタイムで会話ができ、画面を通して同じ景色を共有することができる。そして、食材や名産品などが事前に送られ、レシピを見ながら料理をし、観光地に行った気分で食事を楽しむことができる体験型リモートサービスなのである。これまで時間的、経済的、社会的など様々な阻害要因により旅行ができなかつ

た人にとっては、自宅にいながら、しかも安価で旅行気分を楽しむことができるのである。こうしたオンラインでの共有体験は、オンライン飲み会やオンライン同窓会など個人レベルにおいても浸透してきている。教育分野においては、大学で既にオンライン授業が実施され、大手学習塾などでもオンライン授業を展開している。小中学校においても、緊急事態宣言や一斉休校などに鑑み、GIGA スクール構想の早期実現化にむけた動きが加速したと言われている。キャンプ場でのオンラインキャンプファイヤー（徳島新聞 2020.5.9）がユニークな取り組みとして新聞で紹介されている例もある。キャンプに行かず自宅や遠く離れた場所で、個人でキャンプファイヤーを楽しむという発想は、これまで絶対に出てこなかった発想である。感染拡大防止策として、公園利用の自粛要請や、遊具の使用を禁止するなどの対策が取られたが、子どもたちは自宅でオンラインでのゲームを楽しみ、対戦しながら会話も楽しんでいる。対面による身体的なコミュニケーションはないが、オンライン上に子どもたちなりのコミュニティは実在している。株式会社ジャパンネット銀行（2020）は、「直接対面のコミュニケーションが減ったと回答する人は52%であったが、コミュニケーション自体が減ったと回答する人は29%にとどまり、電話やビデオ通話、など非対面のコミュニケーションが生活に浸透しつつある」と報告している。

国内外ではアスリートやミュージシャンが様々なチャレンジ動画を YouTube や SNS に投稿している。こうした取り組みは、個人の意思や価値観を発信し、人々の意識や行動に様々な影響を与えている。スポーツやレクリエーション、健康支援などの普及を目的に、スポーツ協会やレクリエーション協会も YouTube チャンネルの開設や、ホームページ上に様々な動画を提供するなどし、スポーツやレクリエーションの力でコロナに負けるな！というメッセージを発信している。

4. 考察

今から約90年前の1932年に第1回世界レクリエーション会議が開催された。テーマは、家庭の遊戯、都市と農村、学校や福祉施設でのレクリエーション問題、ハイキング、キャンプ、登山、アマチュア音楽、合唱、演劇、大衆スポーツ絵画や造形など多岐にわたった。また、「レクリエーションと失業」という大恐慌後の社会問題も取り上げている（藪田 2008, p17）。まさに日常生活から個人の趣味や娯楽、社会問題まで、レクリエーションの多様性や存在価値を示している。その後も様々な時代背景が移り行く中、レクリエーションの存在価値もそれに合わせて少しずつ変化しつつあるが、人々の暮らしや心身へもたらす効果、組織や地域社会へ与える影響は昔も今も変わることはない。

近年の動向として、博報堂生活総合研究所（2018）が実施している「生活者の意識・行動・価値観の時系列観測調査」では、「旧来の考え方にとらわれない意識や行動を示しはじめた生活者の様子がうかがえる」と報告されている。また、ローランド・ベルガー（2020）の「新型コロナウイルス 生活者の価値観・消費行動・働き方はどう変わるか」に関する調査結果からは、「消費行動は全体的に量的な低下を見込む一方、新型コロナウイルス感染症に伴う消費者の価値観の変容を背景に、消費目的や消費対象に質的な変化が生じている」との報告がみられる。

政府は社会経済活動の起爆剤として、各種 Go To キャンペーン^{注2)}の実施や、ワークとバケーションをかけ合わせた造語である「ワーケーション」の意義を強調し、「観光は地方創生の切り札であり地域の発展に大きな影響を与える（東京新聞 2020.7.30）」としている。こうした動きに敏感に反応するキャンプ場や事業者がいる一方、和歌山県は自然資源を最大限に生かしたワーケーションに最も早く取り組み、情報政策課に「WAKAYAMA WORKATION PROJECT」のサイトを開設している。

こうした時代の流れを的確に把握し、それに見合う新たな行動（サービスの提供等）や見直しを図ることは、これからの時代において求められる最低限のスキルであるといえる。公的機関であろうと民間企業であろうと、また個人においても、マーケティング志向（インターナルマーケティング・エクスターナルマーケティング）を持ち合わせていなければ、時代に取り残されるといっても過言ではない。小池（2003）は「レクリエーション活動に参加することで、身体的価値、知的価値、情緒的価値、社会的価値などを得ることができ、それらのニーズを満たす働きを持っている」と述べている。しかし、組織や個人が確固たる意志を持ち合わせていなければ、世の中の流れの速さや日々生まれる新たなサービスコンテンツなどにもみこまれ、埋もれてしまうことが危惧される時代である。とはいえ、レクリエーションの様々な場面にて得られる身体的な触れ合いや心の分かち合い、そこから生まれる楽しさや喜びの感情、その場の空気感は、なにものにも代えがたい唯一無二の存在であることは間違いない。「レクリエーション」を体験したことのある人であれば、そこにある多くの気づきや学び、そして価値を体得しているのではないだろうか。レクリエーションはリモートだけでは補いきれない価値があることは誰もが理解できるであろう。レクリエーションの教えや学びは、単なる楽しい活動だけではない。日々の暮らしをいかに楽しく充実したものにするかという意識であったり、そのためのスキルであったり、仲間づくりなど人の生き方すなわち人生そのものなのである。「一日 24 時間一年 365 日、寝ても覚めてもレクリエーション」という片倉道夫ならではの哲学がある。筆者らもその片倉の教えを乞うた者として、with コロナ、after コロナ、そしていかなる時代が訪れようともレクリエーションの価値を創造し発信し続けなければならないと臍を固めている。

5. まとめ

新型コロナウイルス感染症は、我々の暮らしや社会に様々なダメージを与え大きな影響を及ぼした。しかし、そこから生まれたビジネスやサービスは人々のレクリエーションライフに新たな価値を再び創造するものとなった。新しい生活様式におけるレクリエーションの価値を更に高めるためには、一人ひとりのレクリエーションの捉え方が重要であると共に、コロナ禍を機に社会全体で今一度レクリエーションを再考し、再創造し続けなければならない。

注

¹⁾ プレイグラウンド運動には、以下のようにいくつかの諸説がある。① 1876 年にシカゴで始まった

新しい生活様式におけるレクリエーションの価値

という説、② 1872年にマサチューセッツ州ブルックリンで遊び場を確保できた時を始まりとする説、③ 1885年にボストンのサンドガーデンが始まりであるという説。

- 2) Go To トラベルキャンペーンは、観光庁資料（9月18日現在）で以下のように説明されている。国内旅行を対象に宿泊・日帰り旅行代金の1/2相当額を支援。支援額の内、① 7割は旅行代金の割引に、② 3割は旅行先で使える地域共通クーポンとして付与。一人一泊あたり2万円が上限（日帰り旅行については、1万円が上限）。連泊制限や利用回数の制限なし。Go To トラベル事業開始時（7月22日）より支援の対象外としていた、東京都を目的地とした旅行と東京都に居住する方の旅行について、現下の感染状況等に鑑み、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室とも調整し、以下のような取扱いとしたい。

Go To Eat は、2020年9月15日、農林水産省のホームページに公式サイトが開設された。感染予防対策に取り組みながら営業している飲食店および、食材を供給する農林漁業者を支援するため、国が以下の取り組みをするキャンペーンである。

謝辞

本稿執筆にあたり、公益財団法人大阪府レクリエーション協会片倉道夫専務理事に報告したところ、大変喜んでいただいたと共に多くの助言をいただき背中を押していただいた。また、これまで幾度となく人生におけるレクリエーションの重要性を説いてくださり、我々を導いていただいた。長きにわたりご指導ご鞭撻を賜ったことに深く感謝し、ここに記して御礼申し上げたい。

参考文献

- 第73回全国レクリエーション大会 in 宮城 2019 準備委員会. 第73回全国レクリエーション大会 in 宮城 2019 大会スローガン募集要項（オンライン）(<https://miyagi-rec.com/wp-content/uploads/2018/04/b53398e7a45e7195d6b6874ac937d947.pdf>)（参照日 2020.9.10）
- 博報堂生活総合研究所. 生活者の意識・行動・価値観の時系列観測調査「生活定点」1992-2018 最新調査結果を発表 旧来の考え方から自由な意識・行動へと向かう生活者（オンライン）入手先 (<https://www.hakuhodo.co.jp/uploads/2018/09/20181001.pdf>)（参照日 2020.9.10）
- 一般財団法人 和歌山社会経済研究所. 「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」の開催にかかる大会アンケートの集計結果及び経済波及効果について. 2020年1月
- 井上雅恵. 歩きながら感性を養い人間性を育む「歩育」（レクリエーション最前線）. 月刊 REC 2009年7・8月合併号, 2009
- ジャパンネット銀行. with コロナ 150日間、日常生活と価値観の変化を調査（オンライン）入手先 (<https://www.japannetbank.co.jp/company/news2020/pdf/200825.pdf>)（参照日 2020.9.10）
- 片倉道夫, 社会に貢献 共同参画型世直し運動、大阪日日新聞、2017.4.16
- 木村美也子 尾島俊之 近藤克則. 新型コロナウイルス感染症流行下での高齢者の生活への示唆：JAGES 研究の知見から（オンライン）https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjhr/advpub/0/advpub_20200602/_pdf/-char/ja（参照日 2020.9.10）
- 小池和幸. レクリエーション活動の価値に基づくレクリエーション・ニーズ. レクリエーション活動援助法. 中央法規出版株式会社, 2003年2月10日
- 国立青少年教育振興機構. 新型コロナウイルス感染症流行下における公立青少年教育施設の運営に関する現状調査【調査結果】（オンライン）入手先 (<https://www.niye.go.jp/files/5608/196878822.pdf>)（参照日 2020.9.10）

- 琴平バス株式会社ホームページ. テレビ・新聞で紹介されました！(オンライン) 入手先 (<https://www.kotobus-tour.jp/media/>) (参照日 2020.9.10)
- 公益財団法人日本レクリエーション協会. 楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法, 初版, 公益財団法人日本レクリエーション協会, 2017年3月10日
- 公益財団法人日本レクリエーション協会ホームページ. イベント・大会・全国会議 全国レクリエーション大会(オンライン) (<https://recreation.or.jp/business/event/>) (参照日 2020.9.10)
- 公益財団法人明治安田厚生事業団 体力医学研究所 新しい生活様式における身体活動・運動の実践とその効果-最新の科学的エビデンスに基づいて-(オンライン) (<https://www.my-zaidan.or.jp/information/detail.php?id=57829eff56848d8533417c065b403f95&tmp=1594174053>) (参照日 2020.9.10)
- 厚生労働省ホームページ. 三密を避けましょう(オンライン) 入手先 (https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kenkou-iryousoudan.html#h2_1) (参照日 2020.9.10)
- 厚生労働省ホームページ. 新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例を公表しました. 入手先 (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html) (参照日 2020.9.10)
- 厚生労働省ホームページ. 全国健康福祉祭(ねんりんピック)の概要(オンライン) 入手先 (<https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/nenrin/gaiyo.html>) (参照日 2020.9.10)
- 日本経済新聞. コロナ感染 世界で1000万人 新興国で急増. 2020.6.28
- 日本経済新聞. 新型コロナ「最も深刻な緊急事態」WHO事務局長が警告. 2020.7.27
- 日本経済新聞. 世界の感染者2000万人超 チャートの波で見る再拡大. 2020.8.11
- 日本経済新聞. チャートで見る世界の感染状況 新型コロナウイルス(オンライン). 入手先 (<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-chart-list/>) (参照日 2020.9.10)
- 日本経済新聞. 全国の小中高 3月2日から臨時休校要請. 2020.2.27
- 日本経済新聞. 緊急事態宣言 一夜明けた街の姿. 2020.4.8
- 日本経済新聞. 緊急事態を全面解除 経済再開に軸足6月に移動解禁. 2020.5.25
- 日本WHO協会. 日本WHO協会からのお知らせ(オンライン). 入手先 (<https://japan-who.or.jp/about-us/notice/public-health-emergency-of-international-concern/>) (参照日: 2020.9.10)
- 奥野孝昭 大西敏浩 吉田祐一郎. レクリエーション活動の意義に関する一考察. 四天王寺大学紀要(56), 471-498, 2013
- オムロンヘルスケア株式会社. 65歳以上の高齢者1000人に聞いた"withコロナ"実態調査(オンライン) (<https://www.healthcare.omron.co.jp/corp/news/2020/0713.html>) (参照日 2020.9.10)
- ROLAND BERGER. 新型コロナウイルス生活者の価値観・消費行動・働き方はどう変わるか(オンライン) 入手先 (https://rolandberger.tokyo/rolandberger-asset/uploads/2020/05/RB_COVID-19_STUDY_Consumer_summary.pdf) (参照日 2020.9.10)
- 藪田碩哉. レクリエーション支援の基礎 楽しさ・心地よさを行かす理論と技術. 第2版, 財団法人日本レクリエーション協会, 2008年3月31日
- 徳島新聞. ネット活用し県内外70人 自宅でキャンプ気分. 2020.5.9
- 東京新聞 web. 「観光は切り札」菅官房長官がワーケーションの意義強調(オンライン) 入手先 (<https://www.tokyo-np.co.jp/article/45726>) (参照日 2020.9.10)
- 東京都オリンピック・パラリンピック準備局 東京2020大会延期について(オンライン) 入手先 (https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/news/2020/0325_3198.html) (参照日 2020.9.10)
- 東洋経済オンライン 休校で運動不足の子供に起きた数々の体の異変(オンライン) (<https://toyokeizai.net/articles/-/375532>) (参照日 2020.9.10)
- 植木隆光. レクリエーション運動のパラダイム転換に関する研究-財団法人日本レクリエーション協

新しい生活様式におけるレクリエーションの価値

会の視点「トリムから歩育へ」を中心にして－. 関西大学大学院文学研究科総合人文学専攻身体文化専修修士論文, 2011年3月31日

財団法人日本レクリエーション協会. レクリエーション入門, 第10刷, 1994年4月6日

財団法人日本レクリエーション協会. たのしいをつくる やさしいレクリエーション実践, 第2版, 第4刷, 2004年2月10日

財団法人日本レクリエーション協会. レクリエーション運動の五十年－日本レクリエーション協会50年史－. 財団法人日本レクリエーション協会, 1998

財団法人大阪府レクリエーション協会記念誌編集委員会. あなた わたし みなさん 50年のあゆみ. 財団法人大阪府レクリエーション協会, 1998年5月1日

財団法人大阪府レクリエーション協会記念誌編集委員会. あなた わたし みなさん それからの10年史 60周年記念誌. 財団法人大阪府レクリエーション協会, 2008年12月1日

財団法人大阪府レクリエーション協会記念誌編集委員会. あなた わたし みなさん それからの10年史 70周年記念誌. 財団法人大阪府レクリエーション協会, 2018年6月1日